

平成28年度 第2回江別市民健康づくり推進協議会 議事録要旨

【日時】平成28年9月5日（月）午後6時30分～

【場所】江別市保健センター 3階会議室

【出席委員】17名（笹浪会長、伊藤（洋）副会長、一色委員、菅原委員、高橋委員、中川委員、阿部委員、尾澤委員、山田委員、本山委員、武田委員、伊藤（亮）委員、中野委員、小林委員、鎌倉委員、細野委員、水谷委員）

【事務局員】11名（真屋部長、福島次長、小椋センター長、蓮田課長、佐藤参事、及川参事、江川主査、赤石主査、首藤係長、中村係長、佐々木主事）

【傍聴者】 0名

【協議事項】

（1）健康都市宣言の策定について

（2）その他

（1）資料1ページの質疑応答等

阿部委員：健康都市宣言は、全国的にはどのくらいの数の都市が行っているのか？

蓮田課長：道内35市の内、健康都市宣言が12市、その内の3市はスポーツ健康都市宣言という形で宣言している。石狩管内では、石狩市がスポーツ健康都市宣言として行っている。

笹浪会長：「追加資料1」に超高齢社会の進展とあり、H28.7末現在の65歳以上の高齢化率が28.1%とあるが、75歳以上の率はどのような数値か？

蓮田課長：手持ち資料が無いので、次回の協議会までに回答する。

笹浪会長：資料2ページ以降の他市の宣言は、それぞれいつ頃に行われたのか？

蓮田課長：黒石市H27.2.21、西東京市H23.8.20、ふじみ野市H27.1.5。

笹浪会長：傾向としては最近が多いのか？

首藤係長：国の「健康日本21」等を受けて、近年、宣言を行う都市が増加している。

笹浪会長：北海道の市町村で宣言しているところは？

蓮田課長：美唄市H28.6、網走市H21、旭川市H2、函館市H4、帯広市S63と大きい市ほど、早めに宣言している傾向はある。

水谷委員：江別市が宣言しようとしたきっかけは？

蓮田課長：2年程前の市長との対話集会の中で、健康寿命についての話が出ており、このあたりがきっかけと思われる。

笹浪会長：追加資料1の2ページに出てくる、「健康寿命」の定義は？

蓮田課長：健康寿命の定義については、厚労省が出しているのは、国民生活基礎調査票の対象者が、自分が健康であると本人が判断しているのに対し、江別市の健康寿命は、昨年1月データ

ヘルス計画を作成し、ある程度科学的根拠のある基礎数値ということで、国保連のデータベースの資料を使い、要介護、要支援の方を除いた数値になります。

佐藤参事：国が示している健康寿命は 70 歳前後となっているが、これは厚生労働省が行う国民生活基礎調査で主体的な健康観をアンケート調査し、年齢階級別に人口や死亡率から計算するものであり、同じ方法で市町村が健康寿命を算出するのは統計的に無理がある。

そのため、健康寿命の算出方法を検討した結果、国保中央会が開発した国保ベータベースシステム（KDB）が示す方法を用いることとした。この方法は要介護認定を受けている方をいわゆる不健康状態と仮定し、平均余命や平均寿命といった客観的なデータから算出するものであり、都道府県単位や同規模保険者間の比較も可能である。KDBで算出する健康寿命を江別市は統計上の指標とすることで理事者と調整済である。

水谷委員：策定にあたって、我々委員が具体的にどのように関わっていくのか、スケジュールを教えてください。

蓮田課長：委員の皆様には、「宣言文」、「項目文」、そして後段の「目的」と「具体的な取組項目」について、本日と 10 月上旬に第 3 回の協議会で協議いただき、11 月上旬頃の第 4 回の協議会で概ねの案を決定していきたいと考えております。その後、11 月中旬にパブリックコメントを実施して広く市民の意見をいただきながら、その結果について再度、本協議会にお諮りしながら、2 月上旬の新年度予算の記者発表までには決定していきたい。

（1）資料 2 ページ、資料 5 ページの上段の質疑応答・意見等

笹浪会長：資料 2 ページ以降の他市の宣言は、それぞれいつ頃に行われたのか？

蓮田課長：黒石市 H27. 2. 21、西東京市 H23. 8. 20、ふじみ野市 H27. 1. 5 です。

笹浪会長：傾向としては最近が多いのか？

首藤係長：国の「健康日本 21」等を受けて、近年、宣言を行う都市が増加している。

笹浪会長：北海道の市町村で宣言しているところは？

蓮田課長：美唄市 H28. 6、網走市 H21、旭川市 H2、函館市 H4、帯広市 S63 と大きい市ほど、早めに宣言している傾向はある。

水谷委員：江別市が宣言しようとしたきっかけは？

蓮田課長：2 年程前の市長との対話集会の中で、健康寿命についての話が出ており、このあたりがきっかけと思われる。

笹浪会長：追加資料 1 の 2 ページに出てくる、「健康寿命」の定義は？

蓮田課長：健康寿命の定義については、厚労省が出しているのは、国民生活基礎調査票の対象者が、自分が健康であると本人が判断しているのに対し、江別市の健康寿命は、昨年 1 月データヘルス計画を作成し、ある程度科学的根拠のある基礎数値ということで、国保連のデータベースの資料を使い、要介護、要支援の方を除いた数値になります。

佐藤参事：国が示している健康寿命は 70 歳前後となっているが、これは厚生労働省が行う国民生活基礎調査で主体的な健康観をアンケート調査し、年齢階級別に人口や死亡率から計算するものであり、同じ方法で市町村が健康寿命を算出するのは統計的に無理がある。

そのため、健康寿命の算出方法を検討した結果、国保中央会が開発した国保ベータベースシステム（KDB）が示す方法を用いることとした。この方法は要介護認定を受けている

方をいわゆる不健康状態と仮定し、平均余命や平均寿命といった客観的なデータから算出するものであり、都道府県単位や同規模保険者間の比較も可能である。KDBで算出する健康寿命を江別市は統計上の指標とすることで理事者と調整済である。

水谷委員：策定にあたって、我々委員が具体的にどのように関わっていくのか、スケジュールを教えてください。

蓮田課長：委員の皆様には、「宣言文」、「項目文」、そして後段の「目的」と「具体的な取組項目」について、本日と10月上旬に第3回の協議会で協議いただき、11月上旬頃の第4回の協議会で概ねの案を決定していきたいと考えております。その後、11月中旬にパブリックコメントを実施して広く市民の意見をいただきながら、その結果について再度、本協議会にお諮りしながら、2月上旬の新年度予算の記者発表までには決定していきたい。

(1) 資料5 ページ下段の質疑応答・意見等

中川委員：宣言文という短い文の中で、言葉の意味を明確に内外に示す必要がある。そのような視点から何点か事務局の考えを伺いたい。

「石狩皮と原始林の恵みにいだかれ」という意味について

昔、市のキャッチフレーズとしてよく使われ、言葉の響きとしては良いが、健康都市宣言の宣言文として、どうゆう思いを込めているのか？

首藤係長：坂井市の宣言文にもあるように、江別を取り巻く豊かな自然環境について、前文でまず述べる形とし、江別市の特色を出す形としている。

中川委員：「世代を越えて健康づくりに」とあるが、越えての漢字の使い方について、「超」なのか、ひらがなとするのか、その辺の使い分けは何か考えがあつてのことか？

首藤係長：適切な表現等、再検討させていただきます。

中川委員：宣言文の中段で、「世代を越えて健康づくりに取り組むことで」とあるが、ここは、誰が行うのかということが明確でない気がする。例えば、「世代を超えて自らが健康づくりに取り組むことで」という感じにした方が、市民の役割として判りやすい表現になると思う。先ほどの事務局の説明を聞いているので、色々な関係機関が協力しながら取り組むということは理解するが、この宣言文を見ただけでは想像しづらいと思う。

首藤係長：「市民自ら」という表現は、文章の流れ的に判りやすいと思う。再検討させていただきたい。

中川委員：「健康寿命を延ばし」とあるが、本文の流れの中で、いきなり「健康寿命を延ばす」という目的だけが唐突に出て来てくるので、どうして健康寿命を延ばすのかという説明があつた方が良いのではないか。

首藤係長：持ち帰り、検討したい。

中川委員：項目文で、「食生活を改善し」とあるが、すでに改善された食生活を送っている人たちもいるはずなので、「バランスのとれた食生活を送り」等の表現の方が、一般的には良いのではないか？

首藤係長：検討します。

中川委員：追加資料2で、目標が3つあるが（健康意識を高めよう、社会活動に参加しよう、健康づくりをしよう）、宣言文に附属する項目文は4つあるので、この4つの項目文を少し簡潔

に表現した形で、そのまま目標にしても良いのではないか？項目文があるのに、あえて目標として3つの目標を掲げている意味は何か？

蓮田課長：宣言文と項目文については、半永久的に残るものだが、追加資料2に掲げている目標は、現在、えべつ未来づくりビジョン等に基づいて施策を行う中での目標ということで記載しており、随時、見直していく目標という捉え方で設定している。

項目文と同じでも良いのではないかという意見をいただいたので、再度、検討させていただきたい。

一色委員：追加資料1の2ページの平均寿命についてだが、これはH22年度の数値か？

江別の健康寿命との差が大きい、北海道の健康寿命はもっと高いと思うが。

蓮田課長：H22年の数値である。北海道の健康寿命は男性で70.03歳となっており、お示した江別市の健康寿命より高い形となっている。

一色委員：その辺の国の健康寿命の算定方法と、江別市の健康寿命の算定方法の違いを市民に示さないと、江別市はこんなに不健康なのかという話に取られかねない。

真屋部長：国と同じ算定方法で健康寿命を算定するのは市町村では難しく、江別市では国保のデータベースを使用して算定しているが、委員のおっしゃる通り、誤解の無いように市民に向けて説明していきたい。

尾澤委員：健康寿命との差が大きく、やはり良い食生活を送っているのかということが大変重要だと思う。健康にとって重要な食生活を見直すことで、日々の健康につながっていくと考えるので、先ほどの意見にありましたが、項目文の「食生活を改善し」という部分は削って欲しくない。

中川委員：語弊があったら申し訳ないが、すでに努力して良い食生活を送っている人たちもいるはずなので、その人達も含めた市民全体に「食生活を改善し」と言うのは、どうかという趣旨である。この文を削るべきだと言っているのではなく、もう少し補足する文章を足した方が良いのではないかと思う。

阿部委員：資料5ページの「具体的な取組項目」で、生きがいくくり活動として、蒼樹大学がいきなり出てくるが、高齢者クラブや女性協等の団体が、それぞれ活動しているなかで、あえて特定の団体名を出すのはまずいのではないか？

蓮田課長：生徒数や開催数等、過去からの推移がわかる指標の1つとして、蒼樹大学をあげたが、他団体等でも把握可能な数値があれば教えていただきたい。

委員の仰るとおり、特定の団体名を出すことについては、再検討する。

一色委員：先ほどの、項目文の「食生活を改善し」の部分については、国等の計画の中でも似たような表現はあるので、参考にして検討していただければと思う。

水谷委員：宣言文は文章なので、やはり作成する人によって色々なカラーが出てしまい、好き嫌いが出るのはやむを得ない。多少の文章表現などは、大同小異なことが多いと思う。事務局が頭を悩ませて叩き台として作成していただいたものなので、本当におかしいところだけをこの場で議論していくのが良いと考える。

本山委員：宣言文についてですが、正直言って、石狩川と原始林にあまり良いイメージが無い。石狩川など、水害などの悪いイメージの方が大きい。また、全体的に文章が硬い、お役所的な感じがする。

阿部委員：具体的な取り組み項目についても、「運動習慣の定着化と環境の整備」など、非常に硬い

表現だ。環境の整備と書かれると、体育館でも新しく建ててくれるのかと期待してしまう。他市のように、「運動やスポーツを楽しむ」というような、柔らかい表現の方が親しみやすい。

一色委員：この宣言にかかる、江別市議会のスケジュールは？

蓮田課長：8月の所管委員会で、今後、協議会の中で宣言文についての協議を進めていくという報告をしている。今後の進捗状況を踏まえながら、適時、委員会に報告するが、議会の議決事項ではない。

一色委員：市として宣言を策定して対外的にアピールするとなると、道としても、江別市は健康都市宣言しているのだから、もっとこういう施策をとということで主張しやすくなる。宣言の内容等について、今後とも協議会のなかで議論を深めていきたい。

笹浪会長：それでは、委員の皆様から頂いた意見について、事務局においては、充分留意して、宣言文等の修正作業をお願いしたいと思います。